



地域日本語支援ニュース こだま 第 270 号

2015.2.5



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■ともに生きる■

関本保孝さんご寄稿「2月7日～13日夜間中学映画祭開催」

2■お知らせ■

AJALT 公開講座「落語、新しいつながり」講師:柳家さん喬師匠

2月20日(金)開催 於:昭和女子大学

=====

1■ともに生きる■

2月7日～13日夜間中学映画祭開催

関本 保孝

-----  
夜間中学では今、国籍も年代もさまざまな生徒たちが、ともに学んでいます。いろいろな地域の多くの人々が夜間中学に通えるように設置促進を願い、2月7日～13日まで、東京は東中野で「夜間中学映画祭」が開催されます。長く教鞭をとっていらした関本氏に、その趣旨と内容をご案内いただきました。 ☆★☆☆☆☆☆☆  
-----

夜間中学は、戦後、昼仕事をし家計を支える子どもたちのため、学校関係者などの努力でスタート。その後、成人の日本人、在日韓国朝鮮人、元不登校の若者、中国帰国者、障がい者、難民、仕事や国際結婚で来日した人々など、多様な義務教育未修了者を受け入れてきた。

「字が書けないので病院の問診票も書けない。役所に行くときは手に包帯を巻き怪我をしたと言って代わりに書いてもらった。」「来日して住んだところに夜間中学がなく東京に転居し夜間中学に入学した」など、義務教育未修了者の困難は大きい。

しかし、十分な法律の整備や行政施策がないため、現在わずか8都府県に31校しかない。ただ、この間夜間中学教職員でつくる全国夜間中学校研究会などが国会議員や政府に働きかけ事態は大きく変わってきた。2014年4月には超党派の「夜間中学等義務教育拡充議員連盟」が結成され、政府も全国への夜間中学設置促進に方針転換し法整備も日程にのぼりつつある。このような動きを後押しするため、「夜間中学映画祭」開催の運びとなった。

【会場】ポレポレ東中野

【日程】2月7日(土)～13日(金)朝10時10分～昼12時30分前後

【問合先】実行委員会・和島直樹

関本保孝

【上映映画4本】

- (1)映画「夜間中学」(1956年/44分 本多猪四郎監督) 誰もが知る映画「ゴジラ」の本多監督によるヒューマニズムに満ちた素晴らしい作品。小林桂樹、宇野重吉等出演。
  - (2)ドキュメンタリー映画「うどん学校」(1976年/24分 盛善吉監督) 大阪府教育委員会が大阪の夜間中学への通学は大阪在住者に限るとし奈良在住者が入学できなくなったことを契機とした署名活動や自主夜間中学の取組などを描く。
  - (3)映画「学校」(1993年/128分 山田洋次監督) 監督が十数年あたため、幅広い年代の生徒が集まる夜間中学校を舞台に、挫折や苦境から立ちあがる人々を描いた映画。日本アカデミー賞最優秀作品賞等を受賞。
  - (4)ドキュメンタリー映画「こんばんは」(2003年/92分 森康行監督) 墨田区立文花中学校夜間学級に入り多様な生徒のいる夜間中学の素晴らしさを描いたドキュメンタリー映画。キネマ旬報2003年度ベストテン 文化映画 第1位等、ドキュメンタリー部門の賞を総なめにした。
-